

3月5日～6日の本会議では、15名的全議員が市政全般に関する一般質問を行いました。質問と答弁の主な内容を紹介します。(発言順に掲載)
※ QRコードを読み取ると、録画映像をご覧くださいことができます。



西脇 親 議員
(改革未来・自民の風)
・加西維新の会

市の魅力発信と魅力度アップに向けて



問 まちの活性化を示す指標は。

答 市民の暮らしやすさと幸福感を数値化・可視化したウェルビーイング指標が一般的です。アンケートを基にした主観指標とオープンデータを基にした客観指標で構成され、市の魅力やイメージを市民目線で評価することができるため、市の現状を測る有効な指標の一つと考えます。

問 加西市をどのようなまちにしていきたいのか。

答 若者や女性が暮らしたいまちは、どの年代にとっても

魅力的だと考えます。特に若者や女性目線で受け入れられる、共感できることを基準に、施策を進めていきたいと考えます。

問 まちづくりを支える市の職員構成や育成は。

答 令和6年度当初の病院事業を除く職員は840人で、内訳は正規職員325人、会計年度任用職員496人、再任用等の短時間勤務職員19人です。職員の育成については、人事評価制度による各職場における人材育成に加え、職務や段階に応じた研修の受講や外部への派遣研修の実施、資格の取得補助による自己啓発の推進など、スキルアップに努めています。

問 全国に誇れる教育の取組は。

答 教育の基盤が人と人との関わりであるとの信念の下、

加西の教育3本の矢を教育施策の柱として取り組んでいます。特に、幼児期や学齢期について、生きる力の基盤になる基本的な生活習慣や基礎学力の獲得、豊かな心の醸成、健やかな体づくりと同時に、特別な支援が必要な子供たちへの適切な支援により、加西市だったら安心して子供を育てることができるとしてもらえることが何よりも大切だと考えます。あわせて、国際交流として国際理解も含めて英語力の向上を図る、加西にしかできないグローバル教育を実現させるべく進めているところです。

教育に関わる私たちが積極的に発信することで市の魅力を高めていきたいと思っています。

■その他の質問項目

- ・ 農による加西市の活性化
- ・ 北条鉄道と市の関わり



深田 照明 議員
(加西市民クラブ)

上水道の安全管理と PFAS 値



問 加西市の水道水の有機フッ素化合物 (PFAS) 値は安全と言えるのか。

答 加西市には浄水場がなく、県水・市川町・姫路市の浄水場から受水しています。各浄水場とも PFAS の暫定目標値 (1 リットル当たり 50 ナノグラム) に対し、定量下限値の 5 ナノグラム未満となっており、飲料水として使用しても全く問題ありません。

問 健康への影響は。

答 発がん性や甲状腺疾患、心疾患などのホルモン攪乱作

用、免疫機能の低下などの可能性があるとされていますが、国内での事例は報告されていません。

問 ホームページの水質検査結果には PFAS という言葉は見当たらない。市民の不安軽減のため安全性に関する広報を望むが、市の考えは。

答 加西市が受水する3つの浄水場の PFAS に関する水質検査結果は、これまで確認しづらい状況でした。そのため、市のホームページに PFAS に関する見出しを設け、手軽に検索結果を確認できるようにしています。

問 水質管理について、受水している事業体とどのように相互協力や連携をしているのか。

答 日常的な水質管理の報告のほか、兵庫県とは年1回、水質報告会に参集して取組報告や意見交換を行っています。今後も

国の動向を踏まえ、連携を深めて適切に対応します。

問 上水道管路や配水池などの老朽化が進んでいるが、維持管理の対策は進んでいるのか。

答 水道水の安定供給には耐震化が重要と考えます。特にポンプ場から配水池を結ぶ基幹管路の耐震化が重要です。加西市の基幹管路 5.7 キロメートルのうち、市川水系の 3.7 キロメートルは非耐震管ですが、市川町からの受水が終了する令和7年度をもって管路は不要となり、耐震化率 100% となります。また、基幹管路以外は耐震化率 83% です。今後も計画的に耐震化を進めます。

■その他の質問項目

- ・ 大阪・関西万博への小学生観覧参加
- ・ 大阪・関西万博ひょうごフィールドパビリオンの展開